

# ネットの恐さ知って

## 田辺署 田辺工業高校で教室

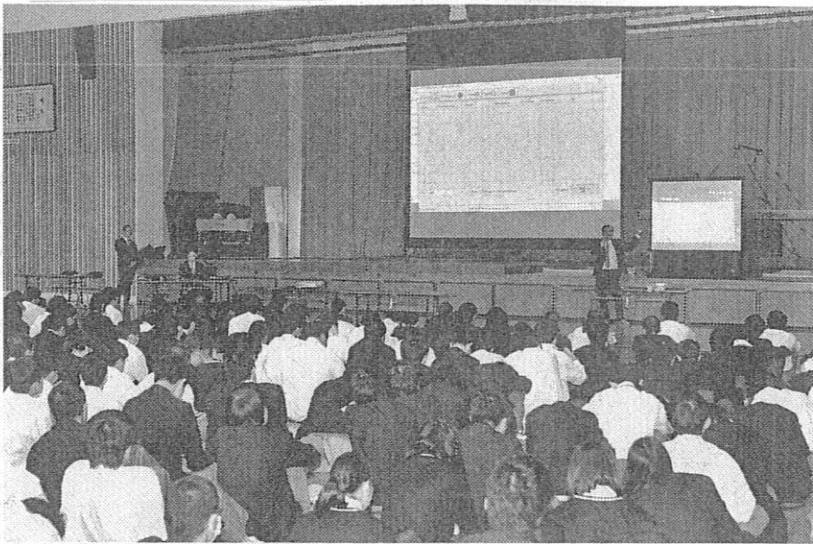
田辺署は、田辺市あけぼのの田辺工業高校でサイバーセキュリティ教室を開いた。同校の生徒412人に向けて、不正アプリでスマートフォンを遠隔操作する手口や、SNSを利用する際の注意などを紹介した。

教室では、近畿管区警察局情報技術解析課の職員が、気象庁の警報や宅配業者などをかたったショートメールで偽サイトに誘導し、不正アプリをダウンロードさせる手口について説明。その後、パソコンでスマートフォンを遠隔操作して、勝手に写真や動画を撮影したり、電話をかけさせたりする様子も実演した。参加した生徒も、不正アプリをダウンロードする手順などを体験した。

また、SNSを巡るトラブルについて注意を促すDVDを上映。インターネットに投稿した書き込みや写真は世界中に広まり、消すことができなくなることや、個人情報情報を特定される危険性などを教えた。同署でサイバーセキュリティ

ティーを担当する生活安全刑事課の金澤智幸係長が「インターネットは使い方によって便利な半面、とても怖いものもある。自分には関係ない、自分は大丈夫と思わず、気を付けて利用してほしい」と呼び掛けた。

参加した同校2年生の小川明日香さん(17)は「スマートフォンは身近に使うもので、遠隔操作できると知り怖いと思った」。3年生の福田太志君(18)は「気象庁の警報を悪用した手口は腹立たしく感じた。スマートフォンやSNSを使うときは、これから気を付けたい」と話した。



田辺工業高校であったサイバーセキュリティ教室  
(田辺市あけぼので)